

# 見付コミュニティは元気いっぱい！ 平成25年度も、さまざまな活動が繰り広げられました。

## クリーンキャンペーン 6/1

毎年6月の第一土曜日「環境デーなごや」の日に全市で実施されます。学区住民や子ども会の児童たちが参加し、見付小学校方面と東山換気所方面の二手に分かれて歩道の草取り・清掃を行いました。



## 納涼みつけ夏まつり 8/3

年々盛り上がりを見せる夏まつりですが、盆踊りの輪に入る人が減少傾向とあって、今年は踊り方の練習が組み込まれました。踊る人が多いほど感動するのが盆踊り。もっと輪に入って！



## 見付学区 敬老会 9/8

高齢者・ご家族など約277名が集い、山田連協会長、来賓の方々のあいさつのもと、「フライング・ドクター」の女性4人組による「鍵盤ハーモニカ」のなごやかな演奏を楽しみました。



## 中高年健康教室 11/19

今年度から中高年が対象になり、今回は杉浦節子先生の指導の下、楽しく体を動かしながら、心と体をほぐしました。



## 親子1万歩あるく会 10/14

見付小学校の児童・保護者や一般住民の方々が参加し、東山一万歩コースを元気にウォーキングしました。



## 秋の火災予防運動 11/9-15

区政協力委員や子どもたちが見付消防団詰所に集合。学区内の各所に「火の用心」の横断幕を取り付けました。



## トワイライトスクール防災訓練 1/10

見付小トワイライトスクールの児童を対象に実施。教室で専門員の水野先生から災害発生時の注意事項を聞いた後、校庭に避難する訓練を行いました。



## 見付学区 成人式 1/12

新成人39人が参加し、祝賀式典のあと「フライング・ドクター」の演奏を鑑賞。祝賀パーティでは、そこかしこで笑いが絶えず、大いに盛り上がりました。



## 見付学区子ども会 2/22

千種区子ども会ドッチボール大会  
**総合二連覇達成！**



**編集後記**  
大きな震災被害を防ぐには、地域住民が力を合わせることが求められます。そのためには十分な情報伝達が欠かせない条件です。これからもがんばります！  
【編集室】tel:090-1754-3229 (黒岩) e-mail: Hourensou@lincom.co.jp

# みつけホウレンソウ 第9号

手づくり学区報

報告 連絡 相談

●特集 防災アンケートに見る学区の防災意識と現状

●活動レポート  
みつけ防災会の活動報告  
見付学区諸団体の活動報告

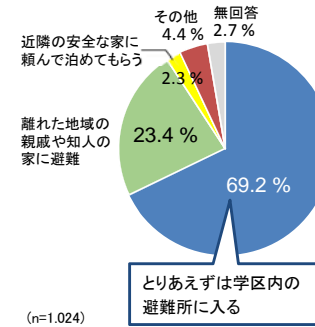
## 【特集】防災アンケートに見る学区の防災意識と現状

# 被災したら、約70%が避難所を利用。

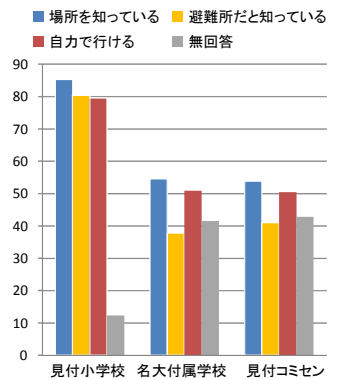
平成25年に実施した「防災アンケート※」の結果から、学区内世帯の防災意識と対策状況が見えてきました。

アンケートによると、震災で自宅に住めなくなった場合「避難所に入る」と答えた人が69.2%、「親戚や知人の家に避難する」が23.4%でした。見付学区の3カ所の避難所のうち、見付小学校と見付コミセンは、避難所であることや場所を知らないため、自力で行けない人が約半数にも上ることが判明しました。また高齢者世帯からは「避難所が遠いので、東山元町付近にも避難所を設けてほしい」という要望が多く寄せられており、学区の防災対策として早急な対応が求められます。

■ 損壊やエレベーター停止で自宅に住めなくなったときには、どのようにしますか



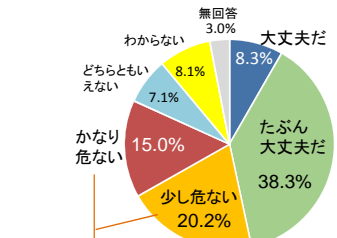
■ 見付学区の3つの避難所について



## 倒壊の不安がある一戸建て住宅の約8割で耐震補強が未実施。

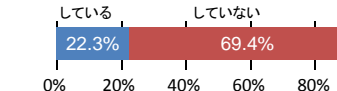
大地震で自宅が倒壊する危険を感じている世帯は約35%あり、そのうちの戸建て住宅で耐震補強が実施済みの世帯は約22%に留まっています。未実施の理由は「費用がかかる、先延ばし、賃貸住宅だから」などでした。深刻な被害を防ぐため、早急に耐震診断を受けることが必要です。

■ あなたの住まいは、大地震でも倒壊しないと思いますが、それとも危ないと思いますか。



また家庭内の減災対策として、家具の下敷きになったり、逃げ道をふさぐおそれのある重い家具の固定が有効ですが、実施率は約32%と低率でした。未実施の理由としては、「壁を傷つけない、賃貸住宅だから、固定すべき家具がない」などとされています。

■ 大型の家具、ピアノ、冷蔵庫などが、地震で倒れないように固定していますか。



阪神淡路大震災に学んだ減災のポイントは、「家が潰れないこと」と「重い家具の下敷きにならないこと」です！

※自治会・町内会所属の3,500世帯を対象に実施し、1,024世帯(35.5%)から回答を得た。

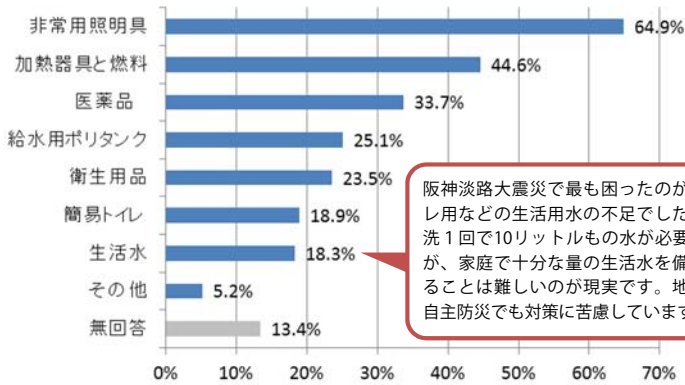


# 約2/3以上の世帯で、水・食料の備蓄量が足りません。 南海トラフ巨大地震に備えるためには1週間分の備蓄が必要とされています。

東日本大震災以降、災害に備えた飲料水や食料の備蓄の意識が高まり、本調査でも半数を越える世帯が備蓄していると答えています。ところが、その量についてはかなり不足していることがわかりました。南海トラフ巨大地震では、救援物資が届くまで7日以上かかるとされており、それまでは電気・ガス・水道が断たれた中で、自力で生き延びなければならず、そのための備えは欠かせません。

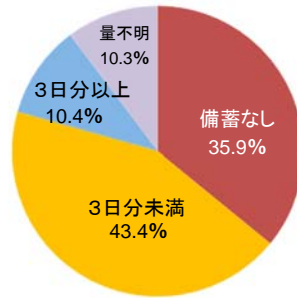
避難所に避難する場合にも、避難所の備蓄がごわずかしかないため、自分で食料を持参するように求められています。備蓄量の基準としては、飲料水は1人1日3リットルとされ、4人家族ならペットボトル6本入り1箱分になります。食料は、初めの3日は冷蔵庫内の食品を食べるとしても、あとの4日以上を非常食として備蓄しておく必要があります。

## ■災害に備えて、家庭で備蓄している品（飲料水・食料以外）

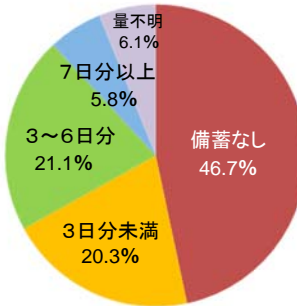


阪神淡路大震災で最も困ったのがトイレ用などの生活用水の不足でした。水洗1回で10リットルもの水が必要ですが、家庭で十分な量の生活水を備蓄することは難しいのが現実です。地域の自主防災でも対策に苦慮しています。

## ■飲料水の備蓄量※



## ■食料の備蓄量



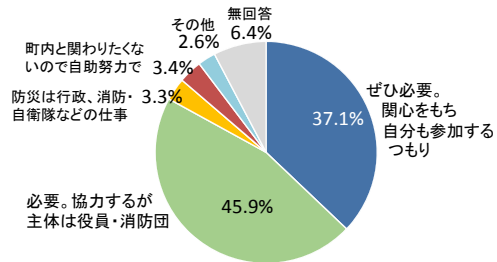
# 地域の防災対策が必要とは思っていても、防災訓練への参加経験は15%。

大災害への備えや防災は個人だけでできるものではないと、多くの人が感じています。町内や学区での身近な防災対策に「関心をもち、自分も参加するつもり」と答えた人が約37%ありました。また、約46%

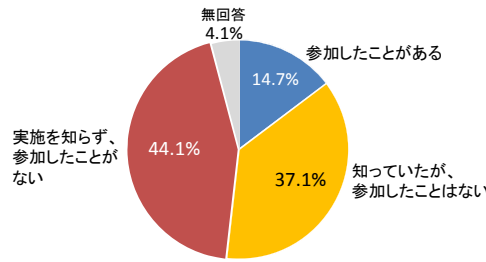
が「協力するが、主体は役員・消防団」と答えています。合わせて83%の人が地域での防災活動の必要性を理解し、協力する姿勢を示していることは心強い限りです。ところが一方で、これまでに防災訓練に参

加した経験がある人は、約15%しかありませんでした。地域活動への参加を避けたいという意識が一因と考えられますが、もっと参加したくなる訓練内容や開催場所、周知の方法にも工夫が求められています。

## ■あなたにとって、町内や学区での身近な防災対策は必要だと思いますか



## ■防災訓練に参加したことがありますか



# いろいろな地域団体と連携して活動に取り組みました。 見付学区の防災を考える会（みつけ防災会）の3年目

今年度は見付学区連絡協議会に所属。千種区役所、千種消防署、見付消防団、見付学区子ども会、民生委員児童委員協議会、自治会・町内会、見付小学校、名古屋大学附属学校、名古屋大学災害対策室、コープあいち等との連携や関係づくりに取り組みました。

## 京都市市民防災センター体験研修 7/6



火災の煙の中での避難体験

防災会、消防団、見付小PTA、子ども会、区政協力委員、民生委員らが参加。防災力を高める体験プログラムを受講しました。

## 地域別防災講習会 9/29



東山元町第3第4自治会を対象に、防災基本知識講習（千種消防署）、非常食の試食、避難所候補地見学を実施しました。

## 子育てママの防災教室 10/15



「ふれあいサロンみつけ」に参加の子育てママに、避難所で役立つ代用品（手ぬぐいとレジ袋のオムツなど）を紹介しました。

## 防災会ジュニアリーダー育成講座 11/3



学区内の避難所のひとつ見付コミュニティセンターで、子どもたちが防災に役立つ知識を身につける育成講座を開催。夜は災害時を想定した避難所宿泊を体験しました。

## 見付学区防災訓練 11/4



翌朝、見付小の防災訓練に直行し、AEDの使い方を事前練習。防災訓練では、防災会メンバーと共に、参加住民に対するAED講習を行いました。

## 防災と地域づくり学習交流会への参加 11/12



コープあいちと「地域における支え合い事業千種区・本地域域会議」主催の学習交流会に参加、みつけ防災会は防災アンケートの結果を冊子にまとめて報告しました。

## 炊き出し体験&防災講話への参加 12/7



学区の避難所になっている名大附属学校が開いた体験会に参加し、ポリ袋炊飯のコツを伝えました。

防災訓練は、見付小学校に学区住民、見付消防団、各種団体と千種消防署・区役所職員など130人が集まって実施されました。



ポリ袋炊飯の実習 起震車で震度7を体験